明治大学外国人研究者招聘制度　報告書

＜招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar＞

氏　名 Name	吳允智
所属機関(派遣元) Affiliation (Home Organization)	韓国　漢陽大学
現在の職名 Position	講師
招聘期間（日本への入国日から出国日） Invitation Period (from the date of entry to departure)	2024年9月13日～2025年8月31日
専攻 Field of Research	文化コンテンツ学
ホスト教員氏名と所属学部研究科等 Name of host teacher and affiliation at Meiji University	牧野淳司　文学部

＜外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report＞

①研究課題　/　Research Theme

K-POPをめぐる日本ファンダムの享受構造とアイデンティティ

②研究概要　/　Outline of Research

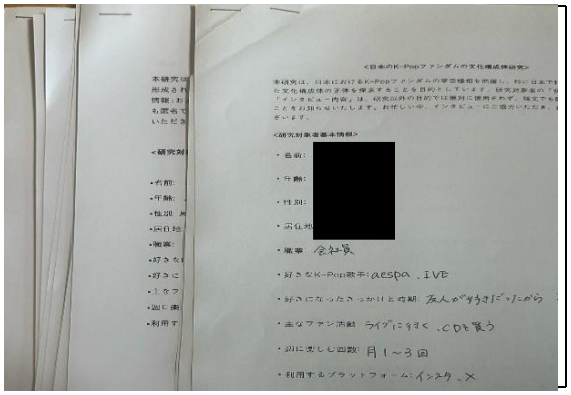
本研究は、研究者が明治大学に招聘された訪問研究員として実施したものであり、「K-POP日本ファンダムの享受構造とアイデンティティ」を主題としている。研究は明治大学図書館を拠点とし、必要な文献調査および日本人を対象としたインタビュー調査（対面、非対面［Zoom］、および書面形式）を併用して実施された。言語的制約を補完するために、韓国語と日本語の両方に堪能な文化コンテンツ学専攻の研究協力者を配置した。

まず、K-POPの概念的定義を再検討し、ファンダムの享受要素を多角的に分析した上で、現在流通しているK-POP概念の限界を指摘した。本研究では、K-POPの形態を「上位から体系化されたデータベース（database）」と「その文化を完結させる中心軸としてのファンダム」という二つの構造からなるものと定義した。ファンダムは、K-POPの多様なデータベース的要素を受容するだけでなく、能動的な二次創作やファン活動を通じて享受を深化させる主体である。

また、インタビュー調査から得られた結果によれば、ファンダムはK-POPに含まれるデータベース的要素のうち、自身に最も適合する「出会いのポイント」から享受を開始することが明らかになった。ファンはその要素を質的に深化させたり、量的に拡大したり、あるいは新たな形に変容させることで享受を進化させていく。このような要素はやがて一つの「小段落（モジュール）」を形成し、それが完結することで別の段落へと展開したり、同時多発的に複数の段落を享受し始めたりする姿が見られた。ファンは初期の引力要素に拘泥することなく、他の訴求ポイントを選択し、享受構造を拡張させる動態性を示した。

さらに、日本ファンダムにおいては「ビジュアル」がファン活動の出発点となっており、従来のJ-POPに見られた「カワイイ」への共感とは異なり、K-POPでは「スターへの憧れ」という文化が構築されていた。これは日本の大衆文化における享受スタイルの拡張であり、意味論的には、アクセスしやすいK-POPコンテンツを介して、スターの完璧な造形とファンとの相互作用戦略によって生み出される親密性が、ファンの「憧れ欲求」を誘発し、最終的にはスターのスタイルを模倣する行動として表出する。このような特定のスタイルへの追求は、ファンダム内に「利他性」を生成する構造としても機能していた。

加えて、ファン同士の関係性においても興味深い傾向が観察された。K-POPという共通のプラットフォームは、比較的弱い結びつきから始まる人間関係を肯定的に促進させる媒介となっており、ファンダムにとって癒しや喜びの源となっていた。この点からは、現代のZ世代が直面する人間関係の脆弱性に対する一つの可能性として、K-POPファンダムが新たな関係性のモデルを提供し得ることが示唆された。

③招聘期間中の研究活動の実績　/　The research results as Guest Professor・Guest Scholar

本研究は韓国研究財団（KCI）登載誌『韓国コンテンツ学会論文誌』第25巻第7号に掲載された。